

中学校美術科における鑑賞教育（2）

——作品の表現形態と性格型について——

鹿 取 武 司*

A Study of Artistic Appreciation in a Junior High School Art Class. (2)

——A Form of Pictures and Psychological Types. ——

Takeshi Katori

I 序

美術科における鑑賞教育では、生徒がいかにじっくりと作品と対話することができるかにその成功はかかっている。生徒がすなおな気持ちで作品に向かい鑑賞の糸口をつかみ、作品との対話を繰り返し作品の持つ様々な美的価値に触れ、それを自からの中に取り入れつつ鑑賞活動を深めてゆく。そのような鑑賞の指導には生徒それぞれの感じ方、とらえ方を十分に汲み取ることが前提となって、始めて指導は生きてくる。これは表現活動における指導と全く同様に、美術科においては極めて大切なことである。

このことが指摘されてから久しいが、鑑賞教育に関する指導論、方法論には今だ決定的なものがない。前報¹⁾では鑑賞教育に対する一つのアプローチを試みたが、残された問題の中から特に鑑賞作品の表現形態と性格の相関について、中学生を対象とした実証的な調査の必要を感じている。すなわち鑑賞作品の表現形態に対

して中学生がその性格ごとにいかなる対応を示すか、を明らかにして指導上有効な視座を得る為の調査である。本報はその前段階としてまず予備的な研究ではあるが、本学学生を対象として調査を行った。すなわち鑑賞者の性格と作品の表現形態との相関関係について、リードの研究²⁾をもとに、その実態と鑑賞活動の契機となる作品の美的要素を明らかにする調査である。中学生を対象とした本調査に向け、集計結果より一資料を得たのでここに報告する。

II 調査方法

1. 調査方法の検討

鑑賞活動のプロセスは前報で明らかにしたが、その初期段階で鑑賞者は作品に対し情緒的、感覚的接近をする。この時鑑賞者の目を最も強く印象付ける作品の効果は、その表現形態にある。すなわち描かれた題材が何か、ということよりどのように描かれているかに鑑賞者の目は引き付けられる。このことは展覧会などで多数の作品を前にして経験するところである。また

* 本学講師 美術科教育法・教育実習

作品に対する好、嫌の感情が決定されるのはこの時である。それは作品の芸術性に対する理解や分析、あるいは客観的な価値判断に先立って行われるものである。

そこで鑑賞者の性格が最も強く反映する鑑賞の初期段階に注目し、調査方法を検討した。

①（第1印象に近い）短時間の鑑賞で作品の表現形態に対する反応はむしろ明瞭に表れる。

②①の短い鑑賞を繰り返し多くの作品に対し行うことにより、鑑賞者はその性格の特性を示す。

③作品に対する情緒的接近は、鑑賞者の性格が作品の表現形態と同一資質による場合、共感度の高いものとなる。

以上3点を条件に実施方法を決定した。

2. 調査の実施

(1) 鑑賞作品の選定

リードの分類した8種類の表現形態（表1）により、その特徴を明瞭に表している作品を西洋絵画（ルネッサンス以降現代まで）より60点選んだ。選択上の留意点は、あまりにポピュラーな作品はなるべく避ける。表現形態の相違を比較しやすくする為題材の幅は広げない。作家の個性に応じた表現がよく表れる人物画を多く取り上げる。などである。また分類上同一の表現形態の作品は片寄らぬ配列を工夫した（表2）。

作品鑑賞の方法は最も一般的であるが、作品に集中しやすく安定した条件で行えるスライドを使用し、さらにスライドはその品質が重要と考え、全て原作品から直接撮影されたものを使

表1. 性格の型と表現形態

性格の型	様式	作品の表現形態	略号
思考型	外向 客観的写実主義	自然主義的表現	T ₁
	内向 主観的写実主義	印象派	T ₂
感情型	外向 客観的超現実主義	(きわめて稀)	F ₁
	内向 主観的超現実主義	シュールレアリスム	F ₂
感覚型	外向 客観的表現主義	耽美主義	S ₁
	内向 主観的表現主義	野獣派、表現主義	S ₂
直覚型	外向 客観的構成主義	機能的建築や工業美術	I ₁
	内向 主観的構成主義	抽象絵画	I ₂

表2. 鑑賞作品と表現形態

番号	作家	作品	表現形態
1	アングル	モワトシェ夫人	T ₁
2	マネ	マネ夫人の肖像	T ₂
3	ムンク	たばこを持った自画像	S ₂
4	リュベンス	夫人像	S ₁
5	クリムト	S.リヒテンシュタインの像	S ₂
6	ピエロ・デラ・フランチェスカ	キリスト洗礼	I ₂
7	ベラスケス	マルガリータの肖像	T ₂
8	バンダイク	年若い自画像	T ₁
9	ホルバイン	カーネーションを持つ男	T ₁
10	ドガ	婦人像	T ₂
11	ボッシュ	群集の中のキリスト	F ₂
12	シャガール	夫人像	F ₂
13	セザンヌ	カルタ取りの人々	I ₂
14	アングル	グランドオダリスク	T ₁
15	ドガ	青衣の踊り子	T ₂
16	グレコ	キリスト像	F ₂
17	リュベンス	ジャックリーヌの肖像	S ₁
18	ムンク	思春期	S ₂
19	ゴッホ	セニョラ・S・ガルシアの像	F ₂
20	レンブラント	自画像	S ₁
21	グルーズ	少女像	S ₁
22	ミレー	アンジェラスの鐘	T ₁
23	ホイッスラー	白衣の少女	T ₂
24	メムリンク	聖ヨハネの幻想	F ₂
25	リュベンス	三美神	S ₁
26	ムンク	妹インゲル	S ₂
27	ラファエロ	いすの Madonna	T ₁
28	ホッバマ	並木道	T ₁
29	モネ	チューリップ畑	T ₂
30	ダリ	ナルシスの変貌	F ₂
31	ゴッホ	アルルの風景	S ₂
32	クレー	バルナッソス	I ₂
33	スーラ	水浴の人々	I ₂
34	ピサロ	庭の風景	T ₂
35	ブリュゲル	冬	F ₂
36	ゴーギャン	いつ嫁ぐのだろう	S ₂
37	ゴッホ	小川の風景	S ₂
38	フラ・アンジェリコ	受胎告知	T ₁
39	マネ	舟遊び	T ₂
40	ブレイク	ヘカテ	F ₂
41	グリューネバルト	死せるキリスト	S ₂
42	ムンク	叫び	S ₂
43	ファン・アイク	聖母マリア	T ₁
44	ゴッホ	オスナ公の家族	F ₂
45	ダビッド派	ギリシアの二人	T ₁
46	フェルメール	バージナルの少女	T ₁
47	スーラ	サーカス	I ₂
48	セザンヌ	りんごとオレンジ	I ₂
49	ファン・ビーサム	花	T ₁
50	エッシャー	爬虫類	F ₂
51	マネ	アトリエの朝食	T ₂
52	ゴッホ	アルルの寝室	S ₂
53	ピカソ	兄弟	S ₂
54	クレー	ナイル川の伝説	I ₂
55	デルボー	公衆の声	S ₁
56	ボッティツェルリ	ビーナスとマルス	T ₁
57	ブーシェ	ニンフ	S ₁
58	リュベンス	帽子の肖像	S ₁
59	ピカソ	母子像	S ₂
60	ロートレック	ムーラン通りの室内	S ₂

用した³⁾。

(2) 調査用紙

鑑賞の印象をその程度に応じ5段階に自己評価し、同時に印象のポイントとなった美的要素を6項目より、任意の数選択する形式とした(表3)。印象の自己評価は好、嫌い、いずれも感じない場合を3とし、非常に共感度の高いものを5、その逆の全く好みの合わないものは1とし、それぞれの中間を4と2とした。

(3) 調査対象と実施

調査対象 文化女子大学生生活造形学科学生

調査日 第1回 昭和59年1月20日

(短大2年生 16名)

第2回 昭和59年5月2日

(学部3年生 33名)

第3回 昭和59年7月16日

(短大2年生 11名)

調査用紙回収 60名 回収率 100%

(4) 実施方法

- ① 表現形態と性格の相関についての調査の主旨を簡単に説明。
- ② 調査用紙配布、記入上の注意を説明。
- ③ スライドの映写に目を慣らす為約5分間風景写真のスライドを見る。
- ④ 調査開始、1コマ20秒の映写。その間を記入時間とし、60コマ連続映写(20分)して終了。その間一切の説明なし。

III 調査結果と考察

1. 調査結果

(1) 集計方法

調査資料は手集計、画線法で被調査者ごとに集計した。作品に対する印象の自己評価は、最も共感度の高い5から1までを+2, +1, 0, -1, -2と数値化し、表現形態により分類された作品群ごとの評価値を集計した。表現形態により分類された作品数は同数ではないの

表3. 調査用紙

番号	5	4	3	2	1	印象のポイント(分析的根拠)
	大いに興味深い	非常に美しい	大好き	美しい	何もうるさくない	作者の個性
31						表現方法
32						表現方法
33						表現方法
34						表現方法

で、ばらつきを補正する為係数(全作品数/分類別作品数)を乗じ、同作品数による計算結果の近似値と見た。集計結果は表4の通りである。

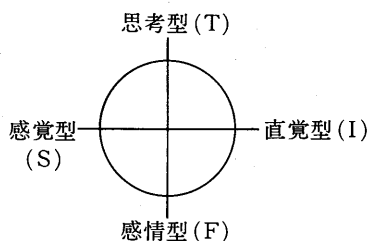
印象のポイントは6項目中の選択数を任意とした為、被調査者間の数値による比較はできないが、個人別と全体の合計値を算出した。集計は印象的な要素が強く表れるよう、最も共感度の高い5(+2)と評価された作品についてのみ行い、チェックされた印を1と数え項目別に集計した(表5)。

(2) 性格型の分類方法

6種類の表現形態(表1の8種類の分類より外向感情型と外向直覚型を除いたもの)別に集計された数値を比較して、

- ① 最高値を示す1つが際立っていて、相反する対極の位置(図1参照)にある数値が低い場合、最高値の示す単一型とする。
- ② 高い数値が2つあり、その両数値が相反する位置にないものは、その2つの混合型とする。

図1. 4つの性格型の図式



③ほぼ同じ数値が3つある場合は不明とする。

数値の高いもののほど作品への共感度が高く、マイナスの数値は性格に合っていないことを表している。

(3) 外向型、内向型の分類方法

※()内のアルファベットは表1の性格型の略号である。以下略号を多く用いる。

思考型(T)と感覚型(S)については外向、内向の両数値を調査した。外向型をそれぞれ T_1 、 S_1 とし、内向型を T_2 、 S_2 とすると、この4つの数値の大小関係で外、内向型が次の様に決定される。

$\left. \begin{matrix} T_1 > T_2 \\ S_1 > S_2 \end{matrix} \right\} \dots\dots \text{外向型}$ $\left. \begin{matrix} T_1 < T_2 \\ S_1 < S_2 \end{matrix} \right\} \dots\dots \text{内向型}$

$\left. \begin{matrix} T_1 \div T_2 \\ S_1 \div S_2 \end{matrix} \right\} \left. \begin{matrix} T_1 < T_2 \\ S_1 > S_2 \end{matrix} \right\} \left. \begin{matrix} T_1 > T_2 \\ S_1 < S_2 \end{matrix} \right\}$ このいずれか

上記分類方法による外、内向型を含めた被調査者の性格型は表4の右端に示した。

(4) 性格型の図式化

被調査者間の比較や性格の特徴を容易に把握する為図式化を試みた。十字に交わった直線と

円との交点を0とし、円より外側を+、内側を-として表4の数値を各直線上にとった。その4点を結びできた四角形は、そのまま性格と鑑賞活動の実態をよく反映した形を表していて、比格検討に好都合であるが、典型的な例を示すにとどめ割愛した(図2)。

2. 考察

表4に示された数値を各性格型に分けると次の様な割合となった。以下各性格型とその割合について特徴を明らかにしながら考察を加え、次に鑑賞の際印象のポイントとなった作品の美的要素について、集計結果を考察してゆく。

思考型(T)	24名	43.4%
感覚型(S)	5	8.3
感情型(F)	2	3.3
直覚型(I)	9	15.0
思考・感覚型(T・S)	7	11.7
思考・直覚型(T・I)	4	6.6
不明	7	11.7

(1) 鑑賞作品の表現形態と性格の型の相関

①思考型(T)

このタイプの占める割合は圧倒的に多く(43.4%),半数にも及ぼうとする高い比率が注

図2. 性格型の図式化

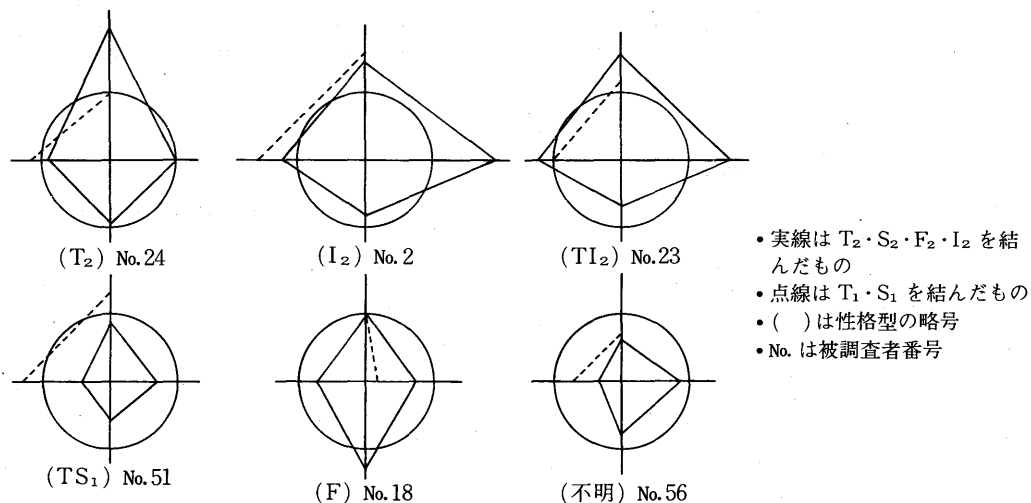


表4. 表現形態別集計及性格型

被調査 者番号	T ₁	T ₂	F ₂	S ₁	S ₂	I ₂	性格型
1	-4.6	33.5	12.0	15.0	9.2	51.0	I ₂
2	64.4	60.3	-18.0	67.5	32.2	102.0	I ₂
3	4.6	6.7	-42.0	-22.5	0	0	T ₂
4	50.6	20.1	-6.0	15.0	-23.0	-17.0	T ₁
5	-4.6	33.5	-48.0	7.5	-44.4	-8.5	T ₀
6	-13.8	53.6	-6.0	-15.0	64.4	17.0	S ₂
7	73.6	40.2	84.0	15.0	-9.2	93.5	I ₂
8	-46.0	13.4	-90.0	-45.0	-23.0	85.0	I ₂
9	36.8	46.9	-30.0	37.5	-41.4	-25.5	TS ₀
10	55.2	46.9	12.0	15.0	-41.4	8.5	T ₁
11	-4.6	60.3	-18.0	-22.5	23.0	34.0	T ₂
12	-41.4	13.4	-66.0	0	9.2	34.0	I ₂
13	36.8	13.4	0	30.0	4.6	8.5	TS ₁
14	27.6	67.0	24.0	37.5	18.4	34.0	T ₂
15	-46.0	13.4	-42.0	-30.0	-18.4	34.0	I ₂
16	9.2	13.4	-54.0	-7.5	-36.8	-17.0	T ₁
17	27.6	73.7	6.0	52.5	59.8	51.0	T ₂
18	23.0	0	30.0	-120.0	-36.8	-34.0	F ₂
19	32.2	73.7	-30.0	30.0	36.8	42.5	T ₂
20	46.0	67.0	6.0	67.5	0	8.5	TS ₀
21	64.4	20.1	12.0	37.5	18.4	34.0	T ₁
22	55.2	60.3	-12.0	37.5	-46.0	25.5	T ₀
23	13.8	53.6	-36.0	0	27.6	59.5	TI ₂
24	0	87.1	-6.0	22.5	-9.2	0	T ₂
25	27.6	-6.7	-18.0	52.5	-13.8	-25.5	S ₁
26	32.2	73.7	-6.0	15.5	0	34.0	T ₂
27	4.6	60.3	-54.0	7.5	-9.2	51.0	TI ₂
28	69.0	53.6	12.0	67.5	-13.8	76.5	
29	4.6	40.2	-60.0	22.5	32.2	25.5	T ₂
30	13.8	26.8	6.0	37.5	0	34.0	
31	-4.6	80.4	-24.0	7.5	0	-17.0	T ₂
32	23.0	53.6	-18.0	30.0	-9.2	-34.0	T ₂
33	64.4	0	12.0	22.5	-64.4	0	T ₁
34	36.8	-39.9	42.0	0	-13.8	-51.0	F ₂
35	-9.2	-6.7	-24.0	22.5	-13.8	8.5	S ₁
36	78.2	33.5	-54.0	45.0	23.0	-34.0	T ₁
37	4.6	-20.1	-18.0	22.5	-32.2	-17.0	S ₁
38	23.0	-20.1	0	30.0	-27.6	-8.5	TS ₁
39	50.6	87.1	6.0	52.5	-18.4	59.5	T ₀
40	41.4	100.5	54.0	37.5	46.0	76.5	T ₂
41	27.6	60.3	-6.0	-15.0	4.6	-17.0	T ₂
42	4.6	20.1	-42.0	30.0	-18.4	25.5	S ₀
43	-9.2	80.4	-36.0	-15.0	4.6	25.5	T ₂
44	-13.8	13.4	-30.0	-22.5	-9.2	25.5	I ₂
45	55.2	93.8	-30.0	82.5	-4.6	42.5	TS ₀
46	46.0	46.9	-12.0	7.5	-18.4	25.5	T ₀
47	32.2	-73.7	0	7.5	-92.0	-25.5	T ₁
48	9.2	60.3	30.0	15.0	18.4	59.5	TI ₂
49	4.6	40.2	24.0	15.0	41.4	68.0	I ₂
50	-4.6	40.2	-42.0	-22.5	4.6	42.5	TI ₂
51	55.2	40.2	24.0	52.5	13.8	51.0	
52	36.8	-13.4	-42.0	37.5	-69.0	-34.0	TS ₁
53	46.0	33.5	-54.0	30.0	-18.4	17.0	T ₁
54	-13.8	-20.1	-36.0	-15.0	-18.4	-17.0	
55	-4.6	20.1	0	22.5	9.2	34.0	
56	-18.4	-26.8	-24.0	-22.5	-64.4	-8.5	
57	-4.6	46.9	-6.0	15.0	18.4	-8.5	T ₂
58	13.8	13.4	-6.0	0	9.2	59.5	I ₂
59	9.2	40.2	-54.0	37.5	-4.6	0	TS ₀
60	-18.4	-80.4	-12.0	-45.0	13.8	0	

※ 性格型の空らんは不明のもの

表5. 印象のポイント集計

	作者の 個性	表現 方法	雰囲気	色彩	テーマ	理由も なく
1	3	1	4	2		
2	8	3	18	16		
3	1	2	1	2		
4	5	9	7	6		
5	3	1	3	1		
6	4		7	2		
7	5	13	15	12	5	
8	6	9	5	11		
9	5	5	4	2		
10	4	6	8	7	8	
11	6	2	2		1	
12		1	3	1		
13		1	1			
14	10		1			
15	1		2			
16						
17	3	1	12	6	3	
18		2	2	2	1	
19	5	6	8	6		
20	6	7		5	4	
21	6	2	3	4	2	
22	4	5		5	5	
23	1	9				
24	3	8	10	7	2	
25		2	2	1	4	
26	3	4	8	4	2	
27	1	2	2		1	
28	3	4	7	7	2	
29	2	2	1			
30	2	3	3	7		
31			1	3	1	2
32		3		2	5	
33	4	5	5			
34	4	6	6	7	4	
35			1	1		
36	3	16	11	12	4	
37		1	1	1		
38			1	1		
39	4	6	3	1		
40	5	8	4	8	7	
41	1	3	2	1		
42						
43	5	3	5	6	1	
44						
45	5	10	9	3	1	
46	1	2	5	6		
47	1				1	
48	7	3	3	5	2	
49	2	5	8	4	1	
50	2	3		2		
51	1	2	2	2	1	
52	1	5	3			
53	2	3	3	3		
54		2	3	2		
55	4	4	1	4	1	2
56						
57	2	2	3	3	1	
58	2		1	2	3	
59		2	3	2	2	
60	4	5	5	3		

※ 空らんはチェックのないもの

目される。思考型に対応する絵画様式は写実主義である。写実主義は自然という外界に対して模倣的態度をとり、その中心となるのは客体である。客体の観察、再現がこの主義の出発点である。ところで初等教育後期に始まり、中、高等教育期間を通して、美術科において表現学習の基礎とされているものは写実主義である。正確に対象を観察し、写実的な表現から造形の基本を学ぶ美術教育は伝統的に行なわれてきたもので、現在もこの実情に変わりはない。この写実主義中心の美術教育が、個人の美的感性に何らかの影響を与えていることは考慮する必要がある。

思考タイプをさらに外向、内向型に分けると次のようになる。

外向思考型 (T ₁)	8名
内向思考型 (T ₂)	12名
不明 (T ₀)	4名

T₁とT₂の作品群を比較すると、いずれも写実主義の範疇に入るが、T₁のホルバイン、アングル、ファン・ビーサムらの作品は特に形態描写に写真のような硬さがあり、T₂のモネ、ドガなどは比較すると、その表現の軟らかさにやさしさを感じる。いわゆる女性的である。いずれにしても客体（描写対象）の外観の観察、再現に強い興味を示す思考型にとっては、これら写実的表現の作品は理想、目標とするところであり大変美しく感じられたはずである。

思考型の傾向があり数値の読み取りから外、内向のはっきりしないものは不明(T₀)とした。

②感覚型 (S)

感覚型は表現主義に対応するが、その外向型と内向型とでは質的にかなりちがいがあって思われる。外向型(S₁)は外部世界の感覚的性質に興味に向けられ、合理性や思索面には関心を示さず、感覚の開放的側面が主題として取り上げられるのが特長である。内向型(S₂)は作家自身の感覚が表現内容となり、自己内部に潜んだ感覚世界が強い色彩を伴って表される場合が多い。いずれにしても感覚型の描画では、写実主義では重視される外界の様相について、形、

色彩の正確さが問題にならず、特に内向型では全くといってよいほど対象の外面の再現性は無視される傾向が強い。

外向感覚型 (S ₁)	3名
内向感覚型 (S ₂)	1名
不明 (S ₀)	1名

S₁には耽美派の代表画家リューベンスの作品例を多く入れた。S₂には表現主義の特徴をよく表している作家、すなわち自己内部の体験的感覚世界をテーマとするムンク、ゴッホなどをこの型の典型的な例として作品を選定した。このタイプの占める割合は高くないが、比較的是っきりとした数値によって感覚型の特徴を示している(表4 Sタイプの数値参照)。

③感情型 (F)

内向感情型 (F ₂)	2名
-------------------------	----

このタイプの割合の低いのは予想通りである。この型に対応する表現形態である超現実主義は、意識下に潜む無意識界の内容の表現であり夢、不可解、無気味なもの、理性の及ばない世界などがそのテーマとして取り上げられる。FはTと対称的位置にある(図1)。すなわち超現実主義は造形教育の基礎である自然主義に対立した表現形態であり、反アカデミズムである。しかしこの少数派は非常に強い個性を持っている。自己の内部感情が価値判断の基準を支配するタイプにとって、その主観的傾向は一般的に強いからである(表4参照)。

F₁の感情外向型は、外界の容体到自己の感情を投入し、その中に自己を見い出すことによって表現欲求を開放してしまうタイプである。したがって造形表現活動には向かわず、作品は生まれない。

④直覚型 (I)

内向直覚型 (I ₂)	9名
-------------------------	----

直覚型は構成主義あるいは抽象主義に対応する。対象の形体、純粋な抽象性や構成に関心が向けられる特徴がある。外向型の場合は対象に対する直観的理解が建築や工芸関係の分野へ展開され、絵画の平面世界には表れない。内向型(I₂)は作者の内部にある抽象性や構成的感覚

を純粋な美的要素で表現する欲求となって表れる。

I_2 はTの次に全体に対する割合が高く(15.0%), また I_2 の数値が他の数値に比べはっきりと高く、直覚型であることを示しているのが特徴である。セザンヌ、クレー、スーラの作品は構成的要素が強く、構図、色彩の基礎学習の作例として多く用いられている。作品例は I_2 が一番少なかったが(表2), その反応は高いものとなった(表4参照)。

⑤混合型

思考・感覚型 ($T \cdot S_1$)	3名
思考・感覚型 ($T \cdot S_0$)	4名
思考・直覚型 ($T \cdot I_2$)	4名

$T \cdot S_1$ タイプはそれぞれの数値が $T_1 \div S_1$, $T_1 > T_2$, $S_1 > S_2$ の関係にあり、その差の大きいことが特徴である。 $T \cdot S_0$ はT, S両方に高い数値があるか、外内向でそれぞれの数値が別れていて判別できないものである。 $T \cdot I_2$ は数値が $T_1 < T_2 \div I_2$ にあるものをこの型に分類した。

混合型は図1の位置関係のとなりどうしの表現形態にほぼ同様の興味、関心を示すタイプである。内的資質も両方の要素を合わせ持つので単一型ほど明瞭な傾向は示さないまでも、混合型と判定されるタイプがむしろ一般的であるとも考えられる⁹⁾。他にI・F, S・Fも混合タイプとして考えられるが、FやSの単一型の比率から推測してごく少数と思われる。今回の調査では1人も出ていない。

⑥タイプ不明

相対する位置(TとF, SとI)にある数値がほぼ等しい。あるいは全ての数値に大差がない。これらいずれかの場合は本調査では性格型は不明とした。そのような数値となった理由として、鑑賞に美的価値(客観的芸術性)の判断を含め心情をチェックした場合も考えたい。選定作品のスライドは全て美術史上優れた絵画であり、それぞれすばらしい表現世界を持っている。その芸術性に目が向き、知的鑑賞態度が介入すれば、自己評価は感覚的な性格による判断だけではなくなるからである。美術に関する高度な学習

経験者ほどこのような鑑賞態度になりやすく、今回の調査ではこの影響は少なくないと考えられる。したがって鑑賞の自己評価は、作品の表現形態に対し直接性格的な嗜好が反映しない数値となったと思われる⁹⁾。

(2) 印象のポイント

印象のポイントは初期鑑賞において作品への感覚的接近の契機となった美的要素を調べたものである。項目の設定については、印象をすばやく記録することに留意し、自己分析が煩雑にならぬよう、また心情をむりに細分化せぬよう考慮して6項目を設けた。各項目は多少重複する内容を持った用語で表し、印象に刻当するものを任意の数選べるようにした(表3参照)。

項目別の全集計は次の通りである。

項 目	集計数	割 合
雰囲気	228	26.1%
表現方法	209	23.9
色彩	201	23.0
作者の個性	160	18.0
テーマ	74	8.5
理由もなく	2	0.2

全員の集計から得られたこの割合は、鑑賞活動の初期段階における一般的な特徴を表している。すなわち作品に雰囲気、表現方法、あるいは色彩が鑑賞活動の糸口の美的要素となる割合の高いことを示している。この3つの要素が全体の70%以上を占めていることは、テーマが8.5%の低い割合と相まって、鑑賞の初期段階ではいかに感覚的な要素への反応が強いかを明確に表している。

作者の個性という要素は他の美的要素と同一概念では扱えぬが、総合的な印象はつかめたものの分析がむずかしく、その作者の作品の総体が好みに合っている場合を想定し設けた。

印象のポイントについて表5の数値を含め、読み取れることは次の通りである。

各性格型ごとに印象のポイントで共通した要素は見当らない。

印象のポイントの高い数値はその美的要素を

明確に受け止めていることを表している。

性格の型の分類で典型的なタイプを示す者は印象のポイントとなった要素もはっきり表れている。

被調査者間で数値にかなりのばらつきが見られるが、感じ方の強弱、関心の度合などの多様性の表れである。

印象のポイントとなった要素が見い出せなかったものは無視できる割合である。

IV まとめ

本調査は、個人の性格が美術的側面といかに対応しているかを鑑賞活動を通して明らかにする目的で行われた調査である。中学生を対象として行われる本調査に先立っての予備調査として、今回の調査方法は、中学生に対しても十分性格型の分類や鑑賞活動の実態を明らかにし得るものとして有効と考えられる。対象が中学生の場合、鑑賞作品の選定基準を中学生の発達段階と表現活動との対応において考慮する必要があるが、その他の点では調査方法に変更はない。むしろ鑑賞の授業を行いながら、短い時間と簡単な準備で鑑賞者の実態を明らかにできる方法として、期待される面は大きいと思われる。

今回の調査結果は、対象が美術専攻の大学生（短大生を含む）であるが、性格型の表れや印象のポイントとなった美的要素は、中学生の調査結果との比較の1資料としても興味深い。

特に初期段階における鑑賞活動の実態のいくらかは明らかになった。また印象のポイントとなった美的要素は、そのまま鑑賞教材の必要要件としての重要性を示唆するものである。

今回の調査結果は考察の中に報告したが、以下そのまとめを掲げ本報の報告を終わる。

- ① 鑑賞作品に対する反応は極めて多様であり、それは性格に対応した美的価値感情により決定される。特に鑑賞活動の初期段階において性格は非常に強く反映する。
- ② 鑑賞作品に対し好感情をいだかせ、鑑賞

活動を進める美的要素は、作品全体の雰囲気、表現方法、色彩などが主となる。

- ③ 性格ごとに鑑賞活動の糸口となる美的要素は特定されない。
- ④ 被調査者の性格は、ほぼ算出された割合と見られるが、写実主義的表現の作品に対し示された高い数値には、被調査者の学習経験の影響を考慮する必要がある。

注

- 1) 文化女子大学研究紀要第14集 p. 7～17
- 2) H. リード著 芸術による教育 美術出版社1978 p. 89～124
- 3) 作品選定に多少の枠をはめることになるがオリジナルスライドの質を重視した。次の4点のみ図版からの複写による。作品番号3, 18, 39, 42
- 4) J・ヤコービ ユング心理学 日本教文社1983 p. 36「これらの機能タイプは、実人生にあってはほとんどまったくといってよいほど純粋な形では現われず、(中略)多かれ少なかれ混合タイプとして現われる。」
- 5) 性格型が不明となった被調査者の中には、平均して学習成績の高い学生が含まれていた。

参考文献

- 1) 「小学校学習指導要領」 文部省 1977
- 2) 「中学校指導書」美術編 文部省 1978
- 3) A・ストー 河合隼雄訳 「ユング」 岩波現代選書 1980
- 4) 伊藤雄司・南河 宏編著 「中学美術の授業」 あゆみ出版 1983